

アメリカと日本の違い

2年7組

<家庭での生活について>

ホームステイの間やはり一番苦労したのは食事のことでした。Weiの家では中華料理ということもあって日本の食事と似たような所もあり、特に問題はなかったのですが、Meganの家でほとんど料理をしないのには少し驚きました。夕食は外食やファーストフードのドライブスルーなんかで済ませることが多かったです。家で作ることもありましたが、自分で食べたい物は自分で作るのです。だから食べる物もみんなばらばら。私も始めは勝手に戸棚や冷蔵庫を開けるのは戸惑いましたが、慣れてくると自分の家のように使わせてもらいました。朝食はシリアルとかコーンフレークやトーストだけといったような簡単なものでした。そのため、学校に行くとお腹がすいて大変でした。

アメリカでバスルームというとトイレとお風呂と洗面所が一つの部屋の中にあります。お風呂といってもバスタブはなくシャワーだけ。もし、誰かがシャワーを使っていたらトイレにも行けません。

家の中ではいつも靴かスリッパを履いていました。アメリカの家には玄関というものがなく、ドアをあけるとすぐリビングになっています。そしてアメリカ人が、平気で寝そべったり、座ったりするのはちょっと驚きました。私も最初は抵抗がありましたが、気がつくとも自分も平気で床に座ったりもしていました。

<Downtownの様子>

街の中は日本に比べるととても落ちついた感じがしました。道幅が広く、建物は近代的な高層ビルばかりが立ち並んでいるのではなく、古い煉瓦造りの建物が所々にあったりして、その街の特有の雰囲気をつくりだしていました。



ポートランドにはバスや電車などの交通機関があります。驚いたことに、これらはDowntown内では全て無料。区域外では有料となりますが、日本に比べるととても安いです。

アメリカのバスは日本とは逆で前から乗って、乗るときに料金を払うのです。運転手がチケットをくれますが、そのチケットを持っていたら、ある時間内で一定区間のバスには無料で乗ることができます。そして私が感心したのは、車椅子の人でもバスに乗ることができるということです。だから、身体の不自由な人でも一人で行動することができるのです。日本ではバスにはもちろん乗れないし、地下鉄にも一部の駅にしかエレベーターはついていません。アメリカはとても福祉の進んだ国だと思います。でも、それとは対照的にDowntownのあちこちで道路の片隅に座り通行人にお金を求める人の姿も見かけました。本当にこういう人たちがいるとは思っていませんでした。このホームレスの人達もアメリカの抱える大きな問題の一つだと思いました。

＜アメリカの学校＞

私が2週間通ったLincoln High Schoolは北陵高校に較べると生徒数は少ないですが、学校はかなり広いです。特に廊下がひろく、そこにはたくさんのロッカーがあります。生徒は自分のロッカーを持っていて、その中に教科書などを入れておきます。そして休み時間になると一斉に教室からでて廊下を歩き来し始めます。だからあれくらいの広さは必要なんでしょうね。休み時間も4分ほどしかなく、そのあいだに次の教室に移動しなければなりません。

アメリカと日本の学校の一番の違いは授業のシステムだと思います。アメリカでは授業ごとに生徒が移動をしなければならないのです。ここにはたくさんの教室があり、先生方がそれぞれ自分の教室を持っています。そして、生徒は自分の教科の先生の所に授業をうけに行きます。もちろん職員室はありません。

アメリカの学校には校則といったような物はほとんどなく、生徒は比較的自由です。もちろん制服はなく、16才で免許が取れるので、車で登校してくる人も中にはいるようです。更に驚いたことには、授業中にガムを噛んだり、何か食べていてもほとんどの先生は何も言わないのです。

Lunch timeも校外のお店で食べる人、家からLunchを持ってくる人、カフェテリアで食べる人などさまざまです。カフェテリアではサンドイッチやハンバーガー、ポテトなどの他にも色々食べることができて、しかも1ドル25セントと安いのです。



この学校には数学や理科などといった教科の他に、外国語では日本語、ロシア語、スペイン語、芸術ではCeramicsやDramaなどの面白い授業がありました。Healthの時間にDrugについてやっているのを見て驚きましたが、このような問題を多く抱えるアメリカだからこそ必要なんだなって思いました。

1クラスの人数は大体20人くらいで、日本に比べると半分以下の人数です。そのうえ毎日時間割が同じなんです。毎日同じ授業だと飽きるような気もしますが、忘れ物をする事は少ないでしょうね。

私にとって印象的だったのは、ほとんどのクラスで生徒が積極的に授業に参加しているのがみられたことでした。先生が言うことに対して、少しでも疑問に思うことがあると手を上げて質問や意見を言い、又それに対して他の生徒が発言すると言った感じで、とても活気があります。これほど自分の意見をはっきり言えるということは、相手を理解したり、相手に自分を理解してもらおううえで、とても重要なことだと思いました。授業も日本とは全く違い、先生は黒板をほとんど使いません。だから、授業中ノートを取る人なんてあまりいませんでした。

一度、4年生のスペイン語のクラスに行って、全てスペイン語で行われているのにびっくりしました。たった4年間でこれほど話せるようになるなんて信じられませんでした。そういえば、日本語のクラスでも2年生ぐらいになると授業でも日本語が頻繁に使われるようになり、日記も書けるようになります。たった2年間でですよ！きっと4年生になったらかなり話せるようになるんでしょうね。

アメリカの外国語の授業は会話が中心。もちろん文法もやりますが、話すということ、言葉を自分のものにするというのが第一のようです。これは日本とは大きく異なる点です。日本では言葉と言うより、文法を詰め込んでひたすら暗記するというどちらかという受験のためだけの勉強という感じ。どちらがよいとか悪いとかは問題ではなく、私は生きた言葉というものを学んでみたいと思います。

このように、私がここに挙げたことはアメリカで見てきた中のほんの一部かも知れませんが、でも、こうやって日本とアメリカの違いを少しでも見つけ出すということで、アメリカだけではなく日本のことも、もう一度見つめ直すという機会が与えられたのかも知れません。どちらが優れているとかではなく、これからも客観的に色々なことについて考えて行ければと思いました。

